

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 8 月 27 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2171200344		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム本郷		
所在地	岐阜県美濃加茂市本郷町3丁目20番地15 (電話) 0574-23-0345		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年8月20日	評価確定日	平成19年11月20日

【情報提供票より】 (平成 19 年 8 月 1 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	6.6 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	28,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (平成 19 年 8 月 1 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84.3 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	木沢記念病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑雑な新興住宅地の中によく溶け込んでいるホームである。目前に農林高校の花・果樹野菜作りの簡易屋根付実習棟が広がり、高校生と日常的に交流がある。利用者の中には食材の下準備・下膳・食後の後片付け・食器洗等の家事を手馴れた状態で手伝い、「自分の出来る役割」を果たしており、表情豊かな日常生活が営まれていた。食事時間中は日頃の楽しげな自然な雰囲気の中で会話が弾んでいた。職員は法人内の交流や研修体制も整っていて学習の機会も恵まれている環境の中で、ケアサービスの質の向上を目指し、利用者の生活の質を大切にしながら、支援に取り組まれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善点で運営理念の啓発が改善課題であったが、新しく地域密着型サービスとしての理念を作り上げ、わかりやすく表現されていていつでも職員の見える位置で事務所に掲示された取り組みがみられた。今も継続的に改善に向けて取り組まれている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義を全職員が理解して、問題点・改善点をケアの中から気づきができるように取り組んでいる。職員一体となつての改善策・改善課題を取り上げていく熱意・意識・意欲が感じ取れる自己評価内容である。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は定期的開催され、ホームの活動計画・活動報告が行なわれている。出席者は行政や民生委員、家族の代表者、ケアマネジャー、施設生活相談員で意見交換がされ、家族の要望や、地域に認知症高齢者の理解や協力を依頼されている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見、苦情、不安などは家族訪問時・電話連絡時に聴取して会話の環境を整えている。職員は、苦情や意見が話しやすいように関係づくりに努力され、家族の意向の把握に前向きに取り組まれている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 隣接の農林高校生と畑や、収穫作業・農産品の購入・高校内の散歩など日常的な交流がある。また毎月の生け花や芸能(太鼓)ボランティアも定期的に訪問している。近所の公園までの散歩の時には地域住民の方へ言葉かけ・挨拶を交わして地域へ溶け込むよう努めている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回改善点での運営理念の啓発では地域密着型サービスの理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所内に掲示され、実践的に活かされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の祭に参加したり、幼稚園児と共通の公園に出掛けている。農林高校内にも散歩コースがあり農産品の購入など、日常的に交流している。生け花・芸能(太鼓)ボランティアが定期的に訪問していたり、幼稚園児や学生ボランティアも受け入れている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を全職員が理解し、問題点・改善点を日々のケアの中から気づきができるよう取り組んでいる。法人内にグループホーム向上委員会が設置されて、ここでも具体的な問題点の解決に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催され、ホームの活動計画や活動報告がされ意見交換の場である。家族の代表者・行政・ケアマネジャー・生活相談員・民生委員の参加がある。		運営推進会議を通じて地域の自治会との関わりを更に深められる事を期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議に参加したり、グループホームのケアマネジャー部会に出席して、意見交換をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	書面を通して、また、面会時に口頭で報告したり、体調の悪い時など電話で連絡している。家族は頻回に訪問されて会話環境が整っている。職員は家族の意向の把握を前向きにとらえて、話しやすい関係づくりに努力している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の苦情窓口、第三者機関を設け活用している。家族の代表者も運営推進会議に出席している。また法人エリア内にある向上委員会・職員会議などで意見交換をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	パートの退職者が2名あったが、影響がないように努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で新人・中堅の職員を対象に研修や教育プログラムが作成されている。また緊急対応の研修も2年間で全員が受講終了予定の計画である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に複数のグループホームがあり、学習会や交流会で情報交換・意見交換をして、相互のサービスの向上を図る取り組みを行なっている。	○	できれば、法人外のグループホームの人との交流を職員レベルの相互交換研修・意見交換をされ、さらにケアの質の見直しの機会があるとよい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居をしながらグループホームに馴染めるようにしたり、特技の畑を耕したり、野菜作りなどを支援している。特に新しい利用者には、職員が積極的に言葉かけを多くしている。また自宅で育てていた観葉植物を居室に、持って来ている方もある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	懐かしの歌を、字の得意の人が大きくして書き写して、歌の時間を楽しんでいる。紙芝居をゆっくりと職員が読み、利用者の楽しそうな笑い声が調査中に響いていた。また、夏祭りの準備を利用者と職員が共同作業で取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者のちょっとした行動や表情から、何をしたいかどうしたいかを職員が意識して把握するよう心掛けている。また、これまでの生活の中でしてきた楽しみや、習慣を出来るだけ継続出来るよう情報収集に努めている。</p>		
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の意向を反映した介護計画作成を基本としているが、家族の意見が少ないため家族との普段のコミュニケーションを通して努力している。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>臨機応変に随時見直しをしている。また、定期的に見直しをして介護計画を作成している。</p>	○	<p>介護計画の見直し月日、かかわった職員、更新した月日、家族に説明し了解された家族や利用者の署名を記録される事が望ましい。</p>
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>法人内の福祉バスを利用して、花フェスタ公園や昭和村などへの外出支援をしたり、病院の通院介助をしている。家族と一緒に花火を楽しみ、その日は外泊になるなど柔軟な対応がある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の協力医療機関へ必要に応じて受診している。また近隣の認知症の専門医の紹介もしたり、通院の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期は主治医の判断で、病院で看取りをしている。ここ1年間に2名急死されたが重度化した支援は今の所ない。入居時に終末期対応について家族からの要望や希望を聴き取り、把握している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護は徹底しており、事務所からの記録類等の持ち出しは禁止している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も朝食時間に合わせないで、利用者の望む時間に起床している。朝4時頃起床し庭の草取りをする利用者もいる。昼食も、ゆっくりと利用者のペースに合わせて介助をし職員も穏やかに、声掛けをしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	持ち込みの箸や湯のみで、主食の量や副食はその人に合った量で盛り付けをし、4人～5人席のテーブルに職員が入り、楽しそうな話題を提供しながらの食事時間である。食べこぼしの始末をしたり、食後のテーブル拭きを、利用者に任せている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数、入浴時間、順番などは要求に沿った支援がされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自宅にいる時からの脳トレーニングの計算ドリルや、観葉植物を育てる事を継続したり、写経や小物づくり、掃除・食事の後片付けなど利用者の残存能力を活かしながら個々の生活を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園や農林高校内の散歩、産直の野菜を購入しに買い物に出かけている。1ヶ月に1度は外出行事計画を行ない、遠出のドライブを楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はセンサーが付いているが、日中は各居室の窓は開放されている。玄関に行くには事務所の横を通らないと、外には出られないため見守りがされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署と連携を取り、避難訓練が年に1回行なわれている。	○	さらに、近所や地域を巻き込んで、協力が得られるように期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士により献立が作成され、調理専門の人がいて、バランスの良い食事が提供されている。夜間は食堂にお茶が用意され、また、ペットボトルにお茶を入れていつでも飲めるように準備している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共用空間は食堂や休養室を兼ねていて、その片隅に床から40cm高くして6畳の畳が敷かれて、大きなテレビが設置されている。広い大きな窓から、農林高校の実習棟の観葉植物、ブドウ棚、野菜畑が眺められ日々季節感がある。各居室はヨシズを使用しており、家庭的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス・鏡・衣装ケース・テレビ・仏壇などが置かれている。壁には家族と一緒にの記念写真が飾られている。持ち込まれた机の上には脳トレーニングのノートが数冊置かれ、利用者の生活感がうかがわれる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。